

＜中学校外国語（英語）部会＞

研究主題・副主題

個に応じた指導の充実を図る指導内容・方法の研究開発

－「話すこと」の基礎的な能力を養う指導方法の工夫・改善－

研究の概要

「話すこと」の種類と到達度の分類に関する表を設定し、習熟の程度に応じた計画的・継続的な指導方法の工夫・改善について研究開発を行う。

I 研究の目的

学習指導要領では、外国語科の目標を「外国語を通して、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」としている。更に「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4つの言語活動について具体的な目標を設定している。その中で「話すこと」については、「英語で話すことについて慣れ親しみ、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする」と示されている。平成16年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果からみると、「話すこと」については、おおむね良好とは言えない状況であると考えられる。

これらの状況を改善するために、学習指導要領の「基準性」を踏まえて、学習指導要領に明示された「話すこと」の目標の実現に資する指導内容や方法の工夫改善を図るとともに、生徒の習熟の程度と、個に応じた指導を充実させていくことが重要と考え、本研究開発を行った。

II 研究の方法

1 他の領域との関連を図った「話すこと」の指導方法を工夫する。

- (1) 「話すこと」を含む言語活動の組み合わせについて研究する。
- (2) 各課の内容に応じて言語活動の組み合わせを工夫し、年間指導計画へ位置付ける。
- (3) 生徒の個に応じた具体的な手だてを工夫する。

2 「話すこと」の表現の能力を高める課題とその指導方法を工夫する。

- (1) 言語の使用場面や言語の働きを一層広げるために要求される課題について研究する。
- (2) コミュニケーション活動に対する生徒の興味・関心を喚起する指導の在り方について工夫する。
- (3) 生徒の個に応じた具体的な手だてを工夫する。

III 研究の内容

1 目指す生徒像の設定

「話すこと」について、本委員会が目指す生徒像を「自分が興味・関心をもったことや相手が尋ねてきたことに対して、楽しみながら英語で自分の意見や感想を述べることのできる生徒」と設定した。

2 「話すこと」の種類と到達度の分類の設定

「話すこと」について、「目指す生徒像」の実現を図るために「話すこと」の「種類」と「到達度」という二つの視点からとらえてみることにした。

「到達度」という二つの視点からとらえてみることにした。

「種類」については、英語が実際に使用される場面や教室での状況を考慮し、会話 (Conversation)、スピーチ (Speech)、ディベート (Debate)、の三つに分けた。また、「到達度」を考えるに当たっては、生徒の習熟の程度に沿って全くの基礎 (Super Basic) から即興的に表現可能な段階 (Impromptu / Free) まで四つの段階を設定し、研究を進めた。

Super Basic : 英語をほとんど理解していない生徒が極めて基礎的な英語を学ぶ段階。

Basic / Controlled : 教師から多くの指示・助言を受けながら基礎的な英語を学ぶ段階。

Intermediate : 自発的な表現力・応用力を部分的に使いながら英語を学ぶ段階。

Impromptu / Free : 自発的な表現力・応用力を大いに発揮しながら英語を学ぶ段階。

「種類」を縦軸にし「到達度」を横軸にして組み合わせ、交差してできた枠内に学習 (指導) 内容を当てはめてみたのが、下の表である。

「話すこと」の種類と到達度の分類に関する表

到達度 種類	Super Basic	Basic / Controlled	Intermediate	Impromptu / Free
Conversation	アルファベットの習得 (音素・発音) 使用頻度の高い単語・語句の習得	教科書の音読・暗唱 Pattern practice Skitによる Pair Work Interview Game etc.	教師と生徒のQ&A ALTとの話題限定の英会話 教科書を使った Skit Contest etc.	教師との Free Talking ALTと Free Talking 生徒同士の Free Talking (サロン・イングリッシュ等) 生徒自作の Skit Contest etc.
Speech	得 (発音・意味・使用法等) 基礎的な文法事項の習得 簡単なつなぎ言葉・相づち等の習得 アイ・コンタクトなどマナーの習得	教科書の音読・暗唱 Pattern practice 教科書等のスピーチ原稿による発表 キーワードを使った暗唱 etc.	自作原稿を使っ ての Show & Tell 絵・写真・映像などを英語で描写する活動 自作原稿を使っ ての Speech Reproduction 活動etc.	原稿無し の Show & Tell 原稿に頼ら ない Speech とその後の impromptu な Q&A etc.
Debate	etc.	教科書の音読・暗唱 Pattern practice Debate で使 用される語句・表現の習得 Debate の方法・ルール等の習得 etc.	教師と生徒との Q&A ALTとの Q&A 教科書等の Debate のモデルを使った Role Play etc.	入念に収集し理解した資料に基づき、impromptu な発言を交えた Debate etc.

本表は、指導者が見通しをもって「話すこと」の言語活動をより具体的に展開していく上で、一つの目安になる。なお、この表を基に生徒に対して言語活動を行わせるとき、配慮事項として①個に応じた指導との関連 ②学年や年間指導計画との関連 ③評価との関連 ④他の言語活動 (聞く・読む・書く) との関連 ⑤家庭学習との関連等が挙げられる。

【Conversation】

1. 活動のねらい

生徒が楽しみながら英語でコミュニケーション活動ができるように、毎授業に「Q&A」、
「pair work」、「group work」等を取り入れ、生徒の「話すこと的能力」と「意欲」が向上する指導と工夫
を行う。

2. 指導計画例(第1学年初期から第3学年)

毎授業に各1回程度を目標とする。教科書の内容、既習の単語(語句)、文法に沿った言語活動を
基本とする。1回の指導にかかる時間は約5分～10分程度とする。

3. 指導内容・方法の例

(1) Basic

英語の基礎学力をつけ、興味・関心をもたせるために授業の中にインタビューゲームなどを取
り入れる。

活動例I (おもしろインタビューゲーム)

- ① 下記のような質問が15文程度書いてある用紙を配り、英文の chorus reading を行う。
- ② reading 後、全員目を閉じさせる。
- ③ 教師は、全員の生徒が目を閉じたことを確認し、数人(4人程度)に合図をする。
(教師から合図を送られた生徒が joker となる。)
- ④ 教師の合図で全員が目を開け、5分間で友達や先生に用紙に書いてある質問する。
- ⑤ 答えてもらった人に、用紙の name の欄にサインをもらう。
- ⑥ 答え方 Yes/No のみは無効となることを注意する。
- ⑦ 時間で着席させポイントを発表する。(ポイントは毎回変えると活動が活発になる。)
(例)同性に質問→1点、異性に質問→2点、先生に質問→3点
- ⑧ 点数発表後、誰が joker かを発表する。joker に質問した場合は、すべて0点となる。

Question	Name	Point
1 Are you a student ?		
2 How are you ?		
3 Are you a tennis fan ?		
4 Do you like melons ?		
5 Are you from Tokyo ?		
6 Do you play the piano ?		

<指導上の留意点> 個々の生徒の習熟の程度に応じた「話すこと」の力が向上するために、ゲー
ムの開始前に答の仕方について次のような指示を与える。

- ① 質問に対する返答を1文のみで答える。(Basic)
- ② 返答のみでなく、理由も加え2文で答える。(Intermediate)
- ③ 3文以上の英文で具体的に返答する。(Free)

(2) Intermediate

既習事項を使い、自分が感じたことや見たことについて、相手に適切に英語で伝えることができるようになるために Tell&Guess などの活動が有効である。

活動例Ⅱ 〈Tell & Guess〉

- ① 各グループにカードを配る。
- ② カードは裏返しの状態で机に置き、順番に1枚ずつ引く。カードを引いた生徒は、そのカードについてのヒントを3文の英語で伝える。
- ③ ヒントを聞いた生徒はそのカードが何かを推測して答える。
- ④ 推測があたった生徒がそのカードをもらえる。
- ⑤ 一番多くとった生徒が勝ち。

＜指導上の留意点＞ 習熟の程度に応じて

- 1：単語だけで伝える
- 2：単語と文章で伝える
- 3：文章だけで伝える という段階を設ける。
生徒は自分が1・2・3のどの段階を使うのかを示してから始める。

【例】



A : It is white.
We can see it in winter.
It is very cold.
B : Is it snow ?
A : That's right !

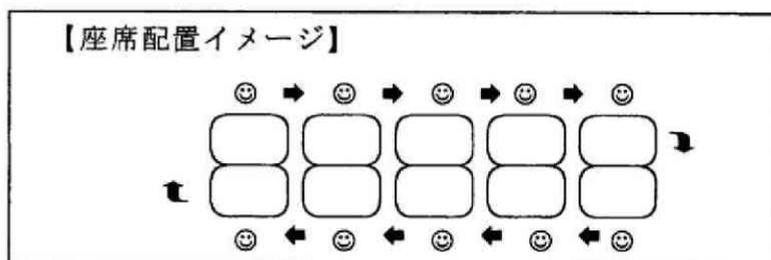
(3) Free

自分の興味・関心のあることや相手の尋ねてきたことについて、楽しみながら英語で話せるようになるためにサロン・イングリッシュなどの活動が有効である。

活動例Ⅲ 〈サロン・イングリッシュ〉

- ① 机の位置を変える。(下記座席配置イメージ参照)
- ② 教師がテーマを板書し、そのテーマについて思いつく単語や表現を自由に発言させる。
- ③ 黒板に書かれた単語等をヒントにし、テーマについて英語で会話を始める。
時間は学年や時期にあわせて設定する。例：学年×1分
時間や学年に応じて「最低でも3文は話す」などの目標を設定する。
- ④ 時間になったら席を時計回りに移動し次の合図で新しい相手と会話を始める。

＜指導上の留意点＞ 習熟の程度に応じて「ヒントカード」を与える。



【Speech】

1. 活動のねらい

次のような段階的手順を経て生徒に自信をつけさせ、「話すこと」とりわけスピーチ活動の活性化を図る。

手順 1	教科書などを活用し、スピーチに有効な表現を短時間・継続的に音読及び暗唱させることで生徒一人一人に自信をもたせる。
手順 2	4人～5人の班を設定し、比較的インフォーマルな状況の中でスピーチを順番に行い、全体の前で行う事前段階とする。
手順 3	聞き手の生徒から内容について質問がなされれば、より自然な環境で言語活動が活発になる。そのため、手順1同様、スピーチに対して有効な疑問文を使った表現の音読練習及び暗唱をさせる。

以上のような手順を経れば、発話量を増やし、Freeの段階へ近づくことができる。

2. 指導計画例(第1学年中期～第3学年)

ながれ	活動内容	備考
1 英語インプット	教科書や教科書のスピーチをもとにしてスピーチ原稿を作成する。(→資料1) スピーチの完成及び反復練習・暗記	作文以外の各活動は3～5分以内
	Basic 疑問文を使った表現の反復練習・暗記(→資料2) Basic	回数に関しては、学年や目標到達度によって異なる。
2 スピーチを円滑に行うための活動	サロンスピーチ…4人一組の小グループの中で順番にスピーチを行う。それに対して英語で質問する。 Basic/Intermediate	資料2を見ながらでもよい。
3 スピーチ	クラスでスピーチを行い、その場で英語のQ&Aを行う。 Intermediate 複数のテーマなどを提示し、その場で生徒に選択させることもできる。 Free	個人別の評価シートを配付する。(→資料3)

1の段階では反復練習(スピーチの暗記、疑問文を使った表現の暗記)を十分に行い、英語をインプットする。2の段階では、4人一組の小集団の中でスピーチを発表する。聞き手はスピーチの内容を知らないので、聞く姿勢も要求される。3の段階ではスピーチを全体の前で行う。また複数のテーマを設定することによってFreeの段階へ近づくことができる。

3. 指導内容・方法例

(1) Basic

教科書のスピーチを暗記させたり、夏季休業中の宿題をベースにして1年次は5文程度、2年次は10文以内、3年次は10文以上の英文を作り暗記させる。この暗記を継続的に行い、ペアを作りワークシートの相互点検をする。この相互点検を通して自分の言いたいことを相手に明確に伝えられるようにする。(資料1)

同時に次段階の準備として疑問文例をあげたワークシート(資料2)を使用し、同様に暗記、相互点検をさせる。この段階では、英文が読めない生徒や、音読のスピードで生徒により差が出るのが考えられる。この場合には、chorus readingを増やしたり、相互点検の時間を多少長めにとる。

<p>Work sheet</p> <p>下記の単語を参考にして友だちを紹介しなさい。</p> <p>Useful words</p> <p>enjoy / walk / go shopping</p> <p>...</p>
--

(資料1)

(2) Intermediate

この段階は生徒個人としてスピーチの暗記ができる状態であるが、代表的な疑問文をある程度言えるようになっている。Freeの段階へ近づく準備として4人～5人一組でスピーチを順番に行う。聞き手の生徒は、ワークシート(資料2)を見ながら、話し手にスピーチの内容についての質問をする。スピーチを暗記し、内容について応答することが目標である。その際、ポイントやゲーム的な要素を取り入れ、whの疑問文を積極的に用いる。スピーチの内容について適切に質問することができるよう、指導する。答え方はたとえ1語であってもこの段階では良い。Freeの段階に近づくために、クラス全員の前でのスピーチをする。方法としては、授業の最初の時間に、数人ずつスピーチ発表を行う。発表日は、生徒に事前に知らせておく。内容に対する応答は2文程度である。各生徒は評価シート(資料3)を使用し、そこに、大切なところをメモしながら友達のスーピーチを聞き、よりよいスピーチなるように評価やアドバイスを記入させる。

<p>質問のための練習</p> <p>This is my friend, Taro.</p> <p>← 1 Is this your friend ?</p> <p>2 Who is your friend ?</p>
--

(資料2)

(3) Free

Freeの段階に近づける手段としては、事前にテーマを複数提示し、その場で話し手に選ばせる方法もある。この段階で即時的なスピーチが行えない生徒にはスピーチのひな形が記入されているシートや空所が多いシート等、数種類のシートを用意して、個に応じた手だてを行うことが必要である。

<p>評価シート</p> <p>To:</p> <p>声の大きさ</p> <p>アイコンタクト</p>

(資料3)

【Debate】

1 活動のねらい

「自分の意見を聞き手に正しく伝わるように話すこと」の活動として、主に第3学年においてはディベートを取り上げる。異なる意見自体がコミュニケーションの目的となり、既習の語彙・文法事項・文型を最大限に利用しながら、英語で情報を整理し、相互に意見を述べ合う活動となる。

2 指導計画例（第2学年後期～第3学年）

学年に1回程度、第2学年では「比較」の学習後、第3学年では3年間の学習事項のまとめとして、活動を行う。Basicの段階は、1か月程度授業毎に5～10分位、IntermediateからFreeは4～5時間を必要とする。

3 指導内容・方法

(1) Basic

まず、生徒に次のような表からクラスごとにテーマを選ばせる。

次に、想定問答のような原稿を日本語で作らせる。生徒を3～4人のグループに分け、全員で考えて同じ原稿を作らせる。これをできる限り英語にする準備時間をとる。単語・文法・リスニングの力を付けるトレーニングは、毎回の授業で教科書を進めながらも、少しずつ繰り返すようにしておく。例えば、ディベートでよく使う言い回しを一覧表にし、毎回の授業でペアワークとして繰り返させる。次のようなワークシートを作ってペアで活動させる。

<教師が提案したテーマの例>	
・公立中学校は標準服がいいか、私服がいいか	
・高校に行くべきか、行かなくてもいいか	
・英語は受験重視か、会話重視か	
<生徒が提案したテーマの例>	
・夏と冬ではどっちがいいか	
・電話とメールではどっちが便利か	
・サッカーと野球はどっちがおもしろいか など	

【ワークシート】相手の意見・考えを聞く ○スラスラ読めた △少しつかえた ×言えない

1	What's your opinion (about ~) ?	(~についての) あなたの意見は。
2	What do you think (about ~) ?	(~について) どう思いますか。
3	Do you think ~ ?	~だと思いますか。
4	How about you?	あなたはどうですか。
5	I have a question about ~ .	~について質問があります。
6	I want to ask about ~ .	~について質問したいのですが。
7	May I ask you about ~?	~について質問してもいいですか。

<指導上の留意点> ワークシートは生徒をペアにして、生徒Aが日本語、生徒Bが英語で言い、小さな口の中にすらすら読めたら○、少しつかえた△、言えない×、を生徒Aが記入していく。2分間で交替、×は次の時間に言えるようにしておくよう指示する。1か月程度で全部が○になることを目標に指導する。

(2) Intermediate

生徒同士の日本語ディベートである程度感覚をつかんだら、今度は教師と代表の班の間で見本として模擬ディベートを行う。まず、模擬ディベートを行う班の中で役割分担を決めさせる。

- ・立論（自分の側のメリットをいう）
- ・尋問（それに対して反対尋問や反論をする）
- ・応え（その反論に対して応える）
- ・反駁（相手の立論や反論にさらに反論する）

このような役割分担を終えた後、いよいよ教師対生徒で英語による模擬ディベートを行う。聞いている生徒全員はジャッジとして、どちらが勝ったかを判定する。

ジャッジは、下のようなフローシートを使って行う。メモの取り方、よいところに○をする、などを確認し、判定させる。このとき、教師も黒板上で大きなフローシートにメモをとっていき、どのようにすればよいか分かる。最後にフローシートを回収して、どちらが勝ったかを判定する。ALTとの模擬ディベートも同じような要領で行う。

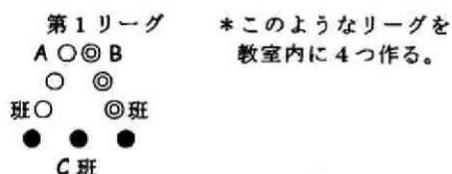
この他に教科書などにのっている Debate をモデルにしてやってみる Role Play、サマリーなどのように、文章を自分の言葉で言い換えることも効果がある。
 <指導上の留意点> 英語で書けない生徒は、日本語やカナで耳に入った言葉をメモさせる。

ディベート・フローシート			
クラステーマ			
	立論	尋問	反駁
派			
派			

(3) Impromptu / Free

いよいよ本番のディベートを行う。まず、クラスを4つのリーグに分ける。リーグ内は総当たり戦とする。1回戦で、対戦相手とじゃんけんをさせて、勝った方が好きな方の意見を選ぶ。負けた方は、自分が賛成しない意見の方を行う。その後、先ほどの役割分担を行い、ジャッジの班にはフローシート内のa~hまでの役割に氏名を書かせる。

- 1回戦：A vs B (Cはジャッジ)
- 2回戦：B vs C (Aはジャッジ)
- 3回戦：A vs C (Bはジャッジ)



制限時間（1分程度）の中で、どちらが優勢であったかを判定させ、リーグ内で勝者を決める。ジャッジは残り全員がする。ディベートはゲーム的要素が多いので、両方の論理を学習することで、立場の違いを学べるような場にする。

<指導上の留意点> 発言できない生徒には、想定問答集を使って班の他の二人がある程度手助けする。

【家庭学習】

1 Conversation での例

下記のようなカード等を利用して、毎日、継続して学習させる。

(1) 自宅での学習内容

- ① 授業の最後に、「英語の質問に3文以上で答えられるようにする」という課題を出す。
- ② 質問をカードに書かせる。
- ③ その質問に対する3文以上の答えをカードに書かせ、暗記させる。

(2) 教師による点検方法

次の授業の最初に、3文以上で答えられるか、一人ずつ発表させる。

発表後、カードに自己評価を記入させ、提出させる。

Date	Question	Answer	自己評価
	(課題の質問を書く)	(3文以上書いて、暗記する)	

※自己評価：◎3文以上 ○2文以上 ●1文だけ ×宿題忘れ

2 Speech での例

スピーチの原稿の作成と口頭練習をさせる。

(1) 自宅での学習内容

- ① 既習の教科書本文を黙読させ、スピーチに役立つような単語や表現に下線を引かせる。
- ② 下線部の一部を他の単語に置き換えて、英文を書かせる。
- ③ 同様に、卒業生や上級生が書いた模範となる英文も参考にさせる。
- ④ すらすらと音読できるように、できる限り既習の単語を使わせ、口頭練習をさせる。

(2) 教師による点検方法

- ① 授業以外の時間を利用して、事前に教師やALTの前でリハーサルをさせる。
- ② 小グループ内での発表と相互評価をさせる。

3 Debate での例

- ① ディベートで使える基本的な単語や表現を復習させる。
- ② 特定の論題についての情報を集め、英語で意見をまとめさせる。

(1) 自宅での学習内容

- ① 定型表現(自分の意見を言う、など)の発音練習及び暗記をさせる。
- ② 新聞、ニュース、インターネット等で論題に関する情報を収集させる。
- ③ 収集した情報等を参考にして、自分の意見の要点をまとめさせる。
その際、ディベートの相手側の反論を予想させ、それに対する意見も準備させる。
- ④ 授業で配布された語いリストや辞書等を利用して、自分の意見を英文で表現させ、書いた英文の発音練習及び暗記をさせる。

(2) 教師による点検方法

- ① 授業でのディベート活動における英語表現を観察する。
- ② 英文を記録したノートやワークシートを提出させる。

IV 研究の成果と課題

1 成果

- 「話すこと」の種類を「Conversation」「Speech」「Debate」の三つに分類することにより、英語が実際に使用される場面に応じた指導方法をより明確にすることができた。
- 三つの種類を通して、目指す生徒像を設定することで、教師が生徒にどのような変容を求めているか明確になった。
- さらに、「話すこと」の到達度を「Super Basic」「Basic」「Intermediate」「Impromptu / Free」の四段階に分けたことにより、生徒の習熟の程度に応じた指導を明確にすることが容易になった。このことは、個に応じた指導の具体化を図る上での基盤となっている。
- Conversation の指導においては、「話すこと」への意欲・関心を高める活動を繰り返し行うことで、抵抗なく英語で話すことに慣れてきた。また、(Super)Basicから段階を踏んで指導していくことで、「Free / Impromptu」の活動を円滑に行うことができた。
- Speech の指導においては、教師が到達度を設定し Super Basic → Basic → Intermediate へ段階的に各課で継続的に指導した。このことにより、「話すこと」の表現の能力を向上させ、英語を自分の言葉として発話することへの意欲を高めることにつながった。その結果、生徒一人一人が個に応じて自信をもってスピーチ活動に臨めるようになった。
- Debate の指導においては、ディベートは中学生にはレベルが高すぎて不向きであるという意見も一部にあるが、生徒はディベートで相手に勝つために自分の気持ちを何とか伝えようとした。このことは相手の意見を聞き取り、考えをまとめ、状況に応じて英語で発話することにつながった。一つのテーマで勝敗を決め、対戦相手を変え繰り返すことで、生徒の発話が習熟し始め、既習事項の定着にもつながることがわかった。Free (Debate) を到達度とし、Super Basic では定型句 (ディベートに必要な表現を含む。) のQ&Aなどの繰り返し練習を行ったことにより、生徒の中にある「話すこと」への意欲が高まった。

2 課題

- 生徒がどの程度「話すこと」の能力を身に付けたか、日々の授業の観察や speaking test などを通して評価を適切に行い、その結果を生徒の今後の励みとなるように、フィードバックしていく必要がある。
- 「話すこと」の家庭学習の形態とその検証方法をより一層工夫し、個に応じた指導を行っていく必要がある。
- 分類表の各活動が年間指導計画の中でどの時期 (学年、学期など) に、また、どの習熟度の生徒に指導することが効果的か、指導計画など引き続き検証していく必要がある。
- 他の三つの言語活動 (聞く・読む・書く) との関連について、今後も検討していく必要がある。
- 分類表は便宜上分けたものであるため、学習 (指導) 内容をどちらの段階に位置付けるべきか明確な分け方ができなかった部分がある。今後さらに詳しく検討していく必要がある。